

○ 本校の概要

昭和8年開校、今年度開校90周年目を迎える。平成26年度から校舎改築に向け基本構想・基本計画を策定。平成28年度より新校舎建設工事(第1期)開始。平成31年度新校舎(第1期)竣工、新校舎へ移転。令和2年度より第2期工事開始、令和3年10月完工。・平成24・25年度大田区教育委員会教育研究推進校に指定。「学び、かわかり、自己を高める子の育成」(生活科・総合的な学習の時間を通して)を研究主題とし、地域を生かした学習活動を展開し、現在もスクールサポート大四と連携を図り、継続して推進している。・平成26・27年度東京都教育委員会オリンピック・パラリンピック教育推進校(研究開発校)に指定。「自己肯定感を高める指導の工夫」(すすんでかわかり、自己のよさを発揮できる子の育成)を研究主題とし、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催と関連を図った学習内容の開発について研究を推進した。令和元年度からは研究主題を「学習問題をすすんで追及したり解決しようとしたりし、社会的な見方・考え方を育む指導の工夫」とし、生活科・社会科「問題解決学習」を通して思考力・判断力を高める指導を行い、合わせて基礎学力の向上に取り組んでいる。・令和3・4年度大田区教育委員会研究推進校に指定され、大四小モデルを追及し、研究発表会において区内外教員に広く普及させた。令和5年度は校内研究のテーマを「主体的・対話的で深い学びの実現～聞く・話すを大切にした授業改善を通して～」とし、国語科を中心に全教科領域で聞く・話すことによって自分の考えを深める児童の育成に務める。

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標
プラン 1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4: 学校評価保護者アンケートで「子供たちは、様々な体験を通して、自ら学び、自ら考える力が身に付いてきている」と回答した保護者の割合が90%以上である。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのもののづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	3: 学校評価保護者アンケートで「子供たちは、様々な体験を通して、自ら学び、自ら考える力が身に付いてきている」と回答した保護者の割合が85%以上である。
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	2: 学校評価保護者アンケートで「子供たちは、様々な体験を通して、自ら学び、自ら考える力が身に付いてきている」と回答した保護者の割合が80%以上である。
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	
			1: 学校評価保護者アンケートで「子供たちは、様々な体験を通して、自ら学び、自ら考える力が身に付いてきている」と回答した保護者の割合が80%未満である。
		国語科を中心に全教科領域で聞く・話すことによって自分の考えを深める児童を育成するための授業改善を行う。	
プラン 2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4: 児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が95%以上である。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3: 児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が90%以上である。
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	
			2: 児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が85%以上である。
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	
		大田区漢字検定・大四算数検定等を目標とした、基礎的な学力の向上を目指す指導を行う。	1: 児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が85%未満である。
プラン 3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4: 学校評価保護者アンケートで「子供たち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が90%以上である。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	3: 学校評価保護者アンケートで「子供たち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が85%以上である。
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	2: 学校評価保護者アンケートで「子供たち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が80%以上である。
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	
			1: 学校評価保護者アンケートで「子供たち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が80%未満である。
		1～6年生の異学年集団による縦割班活動を通して、思いやりや協調性など豊かな心を育てる。	
プラン 4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4: 東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均を上回っている。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	3: 東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均とほぼ同様である。
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	2: 東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均を下回っている。
		体力向上全体計画に基づき、全校体制で投力や持久力などの体力向上を図る取組(一校一取組、学年や学級の課題を踏まえた一学級一実践)を推進する。体育・健康教育授業地区公開講座や保護者会、学級だより等で体力づくりの重要性やその方法を地域・保護者に向けて啓発を行う。	1: 東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均を大きく下回っている。
プラン 5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4: 学校評価保護者アンケートで「教職員が子供たち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が90%以上である。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3: 学校評価保護者アンケートで「教職員が子供たち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が85%以上である。
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	
			2: 学校評価保護者アンケートで「教職員が子供たち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が80%以上である。
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	
		OJT計画を基に、研修の機会を多く設定し、教職員が互いに高め合うようにする。	1: 学校評価保護者アンケートで「教職員が子供たち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が80%未満である。
プラン 6 学校も・家庭も・地域もに家庭学習が一体となっていて	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4: 学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が90%以上である。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3: 学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が85%以上である。
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	
		地域や保護者による読み聞かせ等を実施し、家庭の教育参画意欲を高める。	2: 学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が80%以上である。
		毎日家庭で(学年×10分)の学習を推奨し、取り組む。そのために学年だより等で家庭学習に取り組むことを毎月提示する。また、タブレットを活用した宿題を出すようにする。	1: 学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が80%未満である。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。